

第100回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	売 掛 金	前 払 金
未 収 入 金	未 決 算	仮 払 金	建 物
建物減価償却累計額	建 設 仮 勘 定	買 掛 金	未 払 金
前 受 金	仮 受 金	修 繕 引 当 金	売 上
受 取 手 数 料	固 定 資 産 売 却 益	仕 入	保 険 料
修 繕 費	支 払 手 数 料	火 災 損 失	固 定 資 産 売 却 損

1. 建物について定期修繕を行い、代金 ¥ 4,000,000 は小切手を振り出して支払った。なお、この修繕のためにすでに修繕引当金 ¥ 3,600,000 が設定されている。また、これと同時に、耐用年数を延長するため、外壁を強化する改良工事もあわせて行い、この代金 ¥ 5,000,000 は月末に支払うことにした。
2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
3. 深堀商事株式会社では、先日、営業用店舗に火災が発生し、建物（取得原価：¥ 10,000,000、減価償却累計額：¥ 4,000,000）が焼失した。ただし、この建物には、保険会社と火災保険契約 ¥ 7,000,000 を結んでいたため、ただちに保険金の支払いを請求するとともに、未決算勘定で処理していたところ、本日、保険会社より査定の結果、¥ 5,000,000 の保険金を月末に支払う旨の連絡があった。
4. 決算にあたって、取引銀行から取り寄せた当座預金の残高証明書と当社の当座預金勘定の残高とを確認したところ、これらの残高は一致していなかった。調査の結果、決算日の前日に、仕入先江幡商店に買掛金支払いのため振り出した小切手 ¥ 100,000 と、広告宣伝費支払いのために振り出した小切手 ¥ 50,000 が、ともに先方に未渡しであり、会計課の金庫に保管されていることが判明した。なお、いずれの取引も帳簿上は支払い済みとして処理されている。
5. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	修繕引当金	3,600,000	当座預金	4,000,000
	修繕費	400,000		
	建物	5,000,000	未払金	5,000,000
2	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
3	未収入金	5,000,000	未決算	6,000,000
	火災損失	1,000,000		
4	当座預金	150,000	買掛金	100,000
			未払金	50,000
5	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			

・解説

1. 固定資産の修繕に関する問題です。

修繕に関する問題は、支出した費用を「収益的支出」と「資本的支出」に分けて処理しましょう。

■収益的支出：定期修繕など固定資産の諸機能を維持するための支出 → 修繕費・修繕引当金で処理

■資本的支出：耐用年数を延長させたり、その価値を高めるような支出 → 固定資産の増加として処理

本問はまず、問題文の「建物について定期修繕を行い、代金 ¥ 4,000,000 は小切手を振り出して支払った」から、この4,000,000円が**収益的支出**であることが分かります。

また、問題文の「この修繕のためにすでに修繕引当金 ¥ 3,600,000 が設定されている」から3,600,000円の修繕引当金が設定されていることが分かります。

よって、4,000,000円のうち3,600,000円については**修繕引当金**を取り崩して処理し、残額の400,000円については**修繕費**で費用処理します。

★解答①・収益的支出

(借) 修繕引当金 3,600,000 / (貸) 当座預金 4,000,000

(借) 修繕費 400,000

また、問題文の「耐用年数を延長するため、外壁を強化する改良工事もあわせて行い、この代金 ¥ 5,000,000 は月末に支払うことにした」から、この5,000,000円が**資本的支出**であることが分かるので、**建物の増加**として処理します。

★解答②・資本的支出

(借) 建物 5,000,000 / (貸) 未払金 5,000,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

固定資産の修繕に関する問題は、第 102 回の問 4や第 110 回の問 1、第 111 回の問 5、第 115 回の問 3、第 119 回の問 2、第 123 回の問 5、第 124 回の問 1、第 132 回の問 1、第 137 回の問 3、第 139 回の問 1、第 139 回の問 4、第 141 回の問 2、第 147 回の問 1、第 149 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

3. 固定資産の滅失に関する問題です。本問はまず資産が焼失した時の仕訳を考えましょう。

火災の発生によって資産が焼失した場合、固定資産の帳簿価額（取得原価 10,000,000 円－減価償却累計額 4,000,000 円＝6,000,000 円）を未決算勘定に振り替えます。

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 建物減価償却累計額 4,000,000 / (貸) 建物 10,000,000
(借) 未 決 算 6,000,000

そのうえで、問題文に「本日、保険会社より査定の結果、¥ 5,000,000 の保険金を月末に支払う旨の連絡があった」とあるので、保険金受取確定額 5,000,000 円と未決算勘定 6,000,000 円の貸借差額 1,000,000 円を火災損失で処理します。また、現時点では保険会社から連絡を受けただけでお金を受け取っていないので、未収入金勘定で処理します。

★解答・保険金の受取が確定したとき

(借) 未収入金 5,000,000 / (貸) 未決算 6,000,000
(借) 火災損失 1,000,000

固定資産の滅失に関しては、「滅失時（上記の参考仕訳）」または「保険金の受取額確定時（本問の解答仕訳）」のどちらかの仕訳が問われます。

仕訳のポイントは、「固定資産が滅失したときの帳簿価額を未決算勘定に振り替える」「保険金の受取額が確定したら、未決算勘定との差額を特別損益で処理する」の 2 点です。

固定資産の滅失に関する問題は、第 108 回の問 3や第 109 回の問 5、第 114 回の問 4、第 119 回の問 5、第 122 回の問 4、第 126 回の問 1、第 131 回の問 1、第 138 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 銀行勘定調整表に関する問題です。

本問は、問題文に「仕入先江幡商店に買掛金支払いのため振り出した小切手 ¥ 100,000 と、広告宣伝費支払いのために振り出した小切手 ¥ 50,000 が、ともに先方に未渡しであり、会計課の金庫に保管されていることが判明した」とありますが、これがいわゆる「未渡小切手」です。

小切手を振り出し帳簿上では支払いが完了したものとして処理していたが、実は先方に小切手を渡しておらず、金庫の中に小切手が眠っていたので、当座預金の減少を取り消すとともに、買掛金の未払いに関しては買掛金勘定で、広告宣伝費の未払いについては未払金勘定を使って処理します。

☆参考・既に切っている仕訳

(借) 買 掛 金 100,000 / (貸) 当座預金 150,000
(借) 広告宣伝費 50,000

★解答・未渡小切手を認識する仕訳

(借) 当座預金 150,000 / (貸) 買掛金 100,000
(貸) 未払金 50,000

銀行勘定調整表に関する問題は、第 101 回の問 1や第 105 回の問 4、第 111 回の問 2、第 113 回の問 4、第 115 回の問 5、第 116 回の問 5、第 123 回の問 1、第 125 回の問 3、第 133 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)